



## 2024年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月15日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 聡  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営企画本部長 (氏名) 小松 裕之 TEL 03 (6311) 6532  
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年6月期第3四半期の連結業績（2023年7月1日～2024年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	14,736	8.9	1,878	22.2	1,849	19.2	1,240	13.9
2023年6月期第3四半期	13,535	13.4	1,536	△4.5	1,551	△4.1	1,089	△3.5

(注) 包括利益 2024年6月期第3四半期 1,297百万円 (20.0%) 2023年6月期第3四半期 1,081百万円 (△4.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第3四半期	82.96	—
2023年6月期第3四半期	71.47	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第3四半期	9,699	6,620	67.2
2023年6月期	8,176	6,006	73.5

(参考) 自己資本 2024年6月期第3四半期 6,521百万円 2023年6月期 6,006百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	18.00	—	18.00	36.00
2024年6月期	—	23.00	—	—	—
2024年6月期（予想）	—	—	—	23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年6月期の連結業績予想（2023年7月1日～2024年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,500	7.4	2,500	22.6	2,500	21.4	1,734	19.8	116.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年6月期3Q	15,501,820株	2023年6月期	15,501,820株
② 期末自己株式数	2024年6月期3Q	553,580株	2023年6月期	471,051株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年6月期3Q	14,952,752株	2023年6月期3Q	15,242,430株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託（J-ESOP）」制度に係る信託財産として、株式会社日本カस्टディ銀行（信託E口）が所有している当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2023年7月1日～2024年3月31日）における経営環境は、足踏みもみられました。景気は緩やかに回復しました。しかしながら、円安、資源高等に起因する原材料価格およびエネルギー価格の上昇による物価高もあり、個人消費動向や企業収益における不確実性も高く、引き続き先行きが不透明な状況となりました。

当社が属する情報サービス産業においては、堅調なソフトウェア投資が続いており、2024年4月1日に公表された日銀短観（3月調査）による2024年度ソフトウェア投資計画（全産業・全規模合計）は、2023年度と比較し、6.6%増と引き続き拡大傾向を示しました。

当社グループにとっても、DXの実現を加速するAI（Artificial Intelligence：人工知能）、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）、既存システムのクラウドシステムへの移行、システム開発のスピードアップを実現するローコード開発等の進展により、ビジネス参入機会の増加と事業領域の拡大に繋がりました。

また、「サイバーセキュリティの対策強化」及び「業務効率化」のニーズは引き続き高まっており、これらに対して有効なソリューションを有する当社グループの追い風となりました。

このような環境の下、当社グループでは、「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション（既存事業の改革による事業基盤の拡大・安定化）
- ・イノベーション（自社商品を軸とした新しい価値創造）
- ・競合から協業へ（協業による事業拡大）
- ・開発からサービスへ（サービス視点での事業拡大）
- ・人材調達・人材育成（採って育てる）

また、当社は2021年8月20日に新中期経営計画及びDITグループの2030年ビジョンを発表しました。2030年ビジョンでは、「信頼され、選ばれるDITブランド」の構築に向けてDITの将来像（DIT Services：ワンランク上の価値提供、DIT Spirits：プロフェッショナル集団）を掲げると共にチャレンジ500(\*)と銘打ち、次の経営目標を設定いたしました。



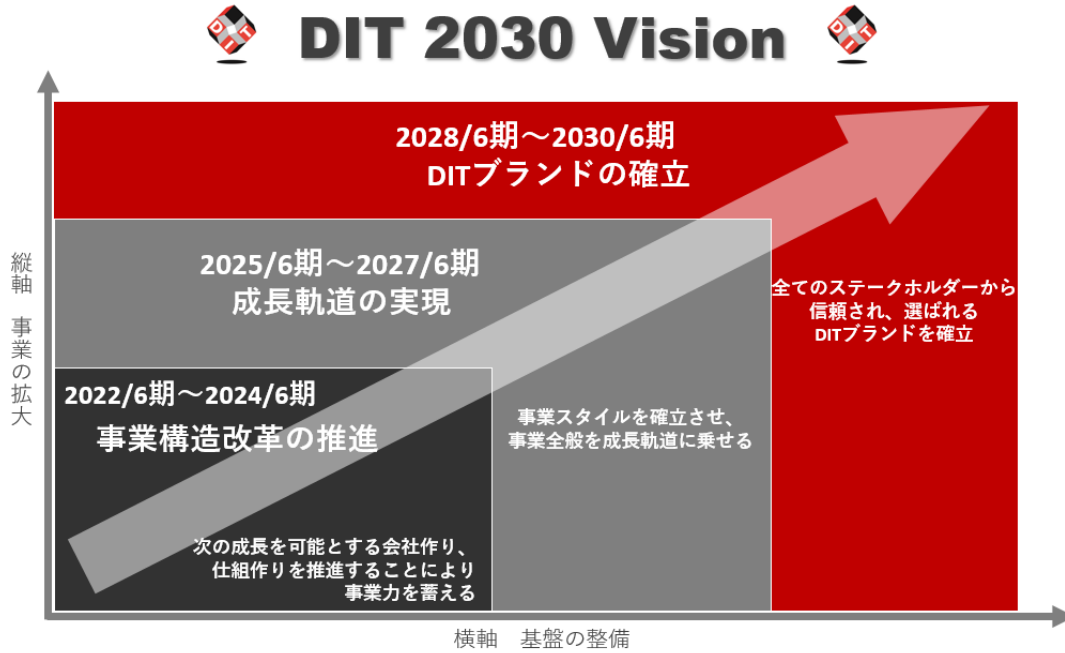
### 経営目標

	2030年6月期までの中期経営目標	
	オーガニックグロース	+新規事業・M&A等
売上高	300億円以上	500億円
営業利益	40億円以上	50億円

(\*)チャレンジ500

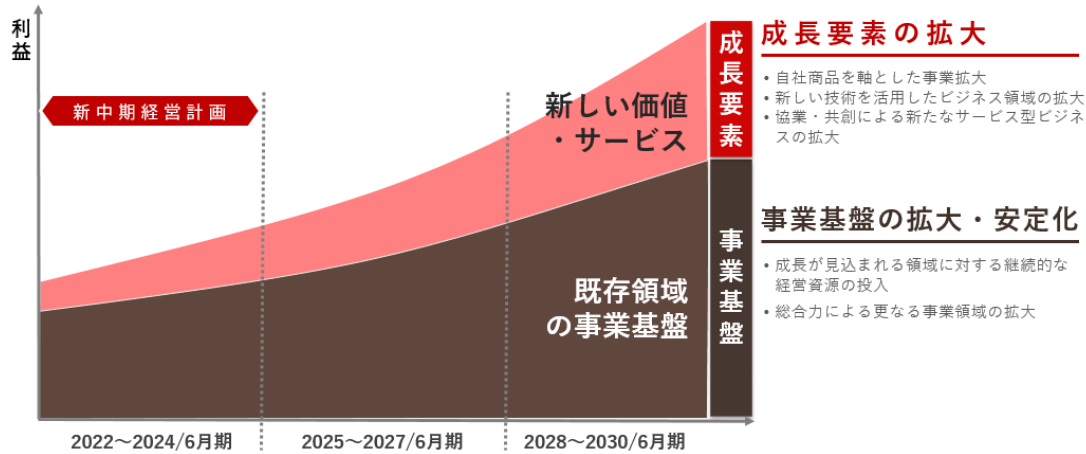
2030年6月期に向け売上高500億円に挑戦！

この2030年ビジョンの実現ステップとして、2022年6月期から2024年6月期を、次の成長を可能とする会社作り、仕組作りを推進することにより事業力を蓄える「事業構造改革の推進」の期間、2025年6月期から2027年6月期までの期間を、事業スタイルを確立させ、事業全般を成長軌道に乗せる「成長軌道の実現」の期間、また、2028年6月期から2030年の期間を、全てのステークホルダーから信頼され、選ばれる「DITブランドの確立」の期間としています。



### 中長期成長モデル

- |   |      |                              |
|---|------|------------------------------|
| 1 | 事業基盤 | ・・・幅広い事業領域の安定的な取引を強みに更なる基盤拡大 |
| 2 | 成長要素 | ・・・社会変化に対応した新しい価値・サービスの提供    |



#### ■2024年6月期第3四半期業績概要

当第3四半期累計の売上・利益ともに旺盛な需要に対応し、過去最高の業績となりました。

特に利益については、前期に発生した不採算案件収束のための引継ぎを行った第1四半期は前期比で減益でしたが、不採算案件の収束作業が完了した第2四半期からは増益基調に転じ、第3四半期累計期間においては、過去最高となりました。一方、昇給等の社員処遇改善に伴う費用及び事業規模拡大に伴う費用(関東地区・関西地区・愛媛事業所での増床費用、函館事業所の開設費用、M&A 2社に伴う支払手数料)が増加し、利益は期初想定内に留まりました。

2024年6月期は、今中期経営計画の最終年度にあたり、過年度から継続している「事業基盤の拡大・安定化」と「成長要素の拡大」の2軸をより強化した事業の推進を継続しています。

「事業基盤の拡大・安定化」については、ビジネスソリューション事業においては、売上は堅調に増加、利益については、前期の第3四半期に不採算案件の損失を計上していた反動もあり、大幅に増加しました。エンベデッドソ

ソリューション事業においては、引き続き、需要の高い車載関連事業に着実に対応し、売上・利益ともに伸ばすことができました。また、システム販売事業においては、インボイス制度導入を追い風にした駆け込み需要が第2四半期で一服したものの電子帳簿保存法改正対応の体制を強化し、順調に売上を伸ばすことができました。

「成長要素の拡大」については、独自技術による自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS：ウェブアルゴス」(\*1)及びExcel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos：ゾブロス」(\*2)は、サブスクリプションライセンスの売上を着実に積み上げることができました。また、電子契約サービス関連の売上が伸び、業績に貢献し始めました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高14,736,252千円（前年同四半期比8.9%増）、営業利益1,878,556千円（同22.2%増）、経常利益1,849,553千円（同19.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,240,512千円（同13.9%増）となりました。

(\*1)Webセキュリティソリューション「WebARGUS：ウェブアルゴス」は、ウェブサイト等の改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる新しい方式のセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知・瞬間復旧により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイト等を守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぎます。

(\*2)Excel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos：ゾブロス」は、Excelベースの非効率な業務を自動化します。これにより短期間で劇的に業務を効率化することができます。（Excel®は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。）

セグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益（営業利益）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

#### ①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野（業務システム開発、運用サポート）は、前年度の不採算案件の損失処理の反動から、売上・利益ともに大幅に前年を上回りました。

業務システム開発では、金融の案件が回復基調を示し、公共、通信の案件及びローコード開発案件が増加しました。一方、医薬、ERPの案件が減少し、売上の伸びが想定内に留まりました。また、第3四半期では改善されつつありますが、ERP案件が受注サイクルの谷間にあたり待機工数が発生したこと及び不採算案件の収束作業後の技術者のローテーションに時間を要したことから、利益の伸びも想定内に留まりました。

運用サポートでは、事業領域の拡張と前期グループ入りしたシンプリズム社の増収増益により、前期の最高業績を更に上回ることができました。

エンベデッドソリューション事業分野（組込みシステム開発、組込みシステム検証）は、車載関連への戦略的シフトを一層強化し、売上・利益を順調に伸ばすことができました。

組込みシステム開発では、半導体系が前年並みに留まりましたが、車載系の研究開発、家電系のIoT関連が想定以上に伸びました。また、受注の期ズレが発生していた車載系の量産開発が第3四半期からスタートしました。その結果、売上・利益ともに前年を順調に上回りました。

組込みシステム検証においては、車載系の検証業務が伸び、売上・利益ともに前年を着実に上回りました。

自社商品事業分野は、自社商品のライセンスの積上げによる売上増及び電子契約サービス関連のライセンス売上及び周辺開発の売上増により、売上・利益ともに順調に伸ばすことができました。

サイバーセキュリティビジネスについては、既存顧客のスケールアップによりライセンス売上が着実に増加し、売上・利益ともに前年を上回りました。また、脆弱性診断専門会社などと協業するなど、WebARGUSを核としたトータルセキュリティサービス（DIT Security）の拡販を進めるとともに、情報セキュリティで最大の脅威となっているランサムウェア攻撃等から重要データを確実に保護するセキュリティ製品「WebARGUS(ウェブアルゴス) for Ransomware(ランサムウェア)」について顧客となるターゲットを絞り込んだ営業を進めました。

業務効率化ビジネスについては、既存顧客の他部署への横展開を推進するとともに前期から積み上げていたリード顧客の案件の取り込みに努め、売上・利益ともに前年を上回りました。

コロナ禍のニューノーマルな社会でニーズが拡大した電子契約のアウトソーシング型サービス「DD-CONNECT」(ディ・ディ・コネクト)は、導入期から成長期に移行し、売上が増加し、利益に寄与し始めました。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は14,179,461千円（前年同四半期比8.7%増）、セグメント利益（営業利益）は1,823,025千円（同24.2%増）となりました。

②システム販売事業

カシオ計算機株式会社製中小企業向け業務・経営支援システム「楽一」を主力とする販売ビジネスについては、2024年1月から義務化された「電子帳簿保存法改正に伴う電子データ取引データ保管」に向けた営業を強化するとともに、インボイス制度導入の駆け込み需要により第2四半期までに売上高は大幅に増加しましたが、第3四半期に入り法令改正対応が一服し、法令改正対応後の新規顧客開拓のための営業要員の増員等から費用が増加し、利益は減少することとなりました。

これらの結果、システム販売事業の売上高は562,352千円（前年同四半期比8.6%増）、セグメント利益（営業利益）は55,531千円（前年同四半期比19.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ586,095千円増加し、7,964,345千円となりました。これは、主に売掛金及び契約資産が810,244千円並びにその他が86,955千円それぞれ増加し、現金及び預金が323,162千円減少したことによるものです。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ936,815千円増加し、1,735,190千円となりました。これは、有形固定資産が43,066千円、無形固定資産が714,270千円及び投資その他の資産が179,479千円それぞれ増加したことによるものです。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ640,157千円増加し、2,620,400千円となりました。これは、買掛金が197,820千円、賞与引当金が242,108千円及びその他が195,962千円それぞれ増加し、未払法人税等が19,801千円減少したことによるものです。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ268,184千円増加し、458,193千円となりました。これは、主に長期借入金が185,145千円増加、株式給付引当金が20,902千円及びその他が35,724千円それぞれ増加したことによるものです。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ614,568千円増加し、6,620,940千円となりました。これは、主に利益剰余金が594,613千円、自己株式が137,108千円及び非支配株主持分が99,768千円それぞれ増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月10日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。今後の社会情勢を鑑み、必要に応じて業績予想の変更について開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,185,107	3,861,944
売掛金及び契約資産	2,953,526	3,763,771
商品	30,802	82,892
仕掛品	108,173	61,248
原材料及び貯蔵品	—	6,862
その他	100,708	187,663
貸倒引当金	△68	△38
流動資産合計	7,378,249	7,964,345
固定資産		
有形固定資産	138,285	181,351
無形固定資産		
のれん	159,105	840,125
その他	13,508	46,758
無形固定資産合計	172,614	886,884
投資その他の資産		
その他	520,033	699,432
貸倒引当金	△32,558	△32,478
投資その他の資産合計	487,475	666,954
固定資産合計	798,374	1,735,190
資産合計	8,176,624	9,699,535
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	615,140	812,960
1年内返済予定の長期借入金	—	22,260
1年内償還予定の社債	—	16,600
未払法人税等	407,337	387,536
賞与引当金	—	242,108
受注損失引当金	14,792	—
その他	942,971	1,138,934
流動負債合計	1,980,242	2,620,400
固定負債		
長期借入金	—	185,145
社債	—	25,100
退職給付に係る負債	8,914	10,226
株式給付引当金	142,694	163,596
その他	38,401	74,125
固定負債合計	190,009	458,193
負債合計	2,170,252	3,078,594
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	453,156	453,156
資本剰余金	459,214	459,214
利益剰余金	5,742,065	6,336,678
自己株式	△694,538	△831,646
株主資本合計	5,959,896	6,417,402
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,563	58,532
為替換算調整勘定	35,911	45,238
その他の包括利益累計額合計	46,475	103,770
非支配株主持分	—	99,768
純資産合計	6,006,372	6,620,940
負債純資産合計	8,176,624	9,699,535



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
売上高	13,535,061	14,736,252
売上原価	10,384,651	11,105,934
売上総利益	3,150,409	3,630,317
販売費及び一般管理費	1,613,704	1,751,761
営業利益	1,536,705	1,878,556
営業外収益		
受取利息	300	273
受取配当金	421	—
受取手数料	1,167	1,500
助成金収入	10,438	437
保険解約返戻金	4,088	106
未払配当金除斥益	847	817
固定資産受贈益	2,345	—
その他	377	475
営業外収益合計	19,987	3,610
営業外費用		
支払利息	484	415
支払手数料	165	13,431
投資事業組合運用損	2,155	2,155
為替差損	1,900	1,515
事務所移転費用	—	13,094
その他	19	2,000
営業外費用合計	4,725	32,612
経常利益	1,551,966	1,849,553
特別利益		
投資有価証券売却益	3,928	—
特別利益合計	3,928	—
税金等調整前四半期純利益	1,555,895	1,849,553
法人税、住民税及び事業税	518,892	666,005
法人税等調整額	△52,445	△56,963
法人税等合計	466,447	609,041
四半期純利益	1,089,448	1,240,512
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,089,448	1,240,512

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益	1,089,448	1,240,512
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,028	47,968
為替換算調整勘定	△4,662	9,326
その他の包括利益合計	△7,690	57,295
四半期包括利益	1,081,757	1,297,807
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,081,757	1,297,807

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,035,281	499,779	13,535,061	—	13,535,061
セグメント間の内部売上高又 は振替高	12,435	17,886	30,321	△30,321	—
計	13,047,716	517,666	13,565,382	△30,321	13,535,061
セグメント利益	1,467,410	69,289	1,536,700	5	1,536,705

(注) 1. セグメント利益の調整額5千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,179,461	556,790	14,736,252	—	14,736,252
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	5,561	5,561	△5,561	—
計	14,179,461	562,352	14,741,814	△5,561	14,736,252
セグメント利益	1,823,025	55,531	1,878,556	—	1,878,556

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第3四半期連結会計期間に株式会社ジャングル及びシステム・プロダクト株式会社の株式を取得し、新たに連結範囲に含めたことにより「ソフトウェア開発事業」セグメントにおいて、のれんが発生しております。当該のれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において710,852千円であります。